

## CONTENTS

洋学資料館の夏休み企画開催!!	2
資料館展示品から	4
新収蔵資料紹介/コラム	5
NEWS FILE	6
友の会のページ 研修バス旅行報告	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

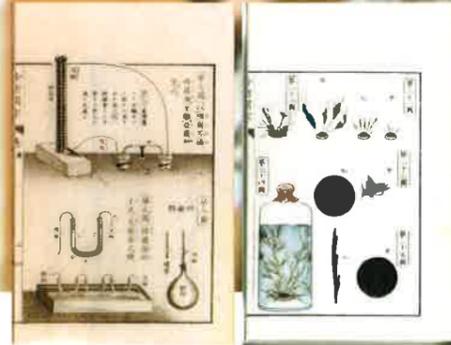
No. 2  
September, 2010

美作市赤田の吉野川沿いに江見家墓所が見えます。  
この村で生まれ育った江見梅之輔(助)は、  
ペリー司令長官率いるアメリカ東インド艦隊が浦賀に来航した  
嘉永6年、華岡流外科を習得するため、  
大坂の分塾合水堂に入門しました。  
帰郷後、地域の医療活動に従事した梅之輔は、  
今この地で静かに眠っています。



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

# 江戸時代の化学書『舎密開宗』からの再現実験



宇田川榕菴著『舎密開宗』日本で最初の本格的な化学書。右が銀樹で左がボルタ電池の図です。



佐藤誠先生

山本芳美先生

8月17日には、宇田川榕菴の著した化学書『舎密開宗』に掲載された実験の再現が行われました。最初に津山工業高等専門学校の佐藤誠先生の指導で、ボルタ電池作りに挑戦しました。水溶液に浸した紙を間にはさみながら銅版と亜鉛版を交互に重ねると電気が起こり、LEDライトを点灯させることができます。子ども達は真剣な表情で先生の説明を聞き、実験が成功すると笑顔を浮かべていました。

次に津山高校の山本芳美先生と科学部の皆さんの指導で、銀樹を作りました。これは硝酸銀の水溶液に銅線を浸すと、銀が結晶化して木のようなものになる。完成した銀樹はラミネートではさんでお土産に持ち帰りました。

この2つは実際に榕菴も挑戦した実験です。参加した皆さんも榕菴と同じように科学への好奇心を育てることができたのではないのでしょうか。

# 洋学資料館の夏休み企画開催!! ヒンデローペン絵付け体験講座



説明をする永江絹子先生。  
Tシャツもヒンデローペンの作品です。



作製した手鏡

7月31日、オランダの伝統的な装飾技法・ヒンデローペンの絵付け体験教室が開かれました。

講師にお迎えしたのは、資料館内のヒンデローペン装飾を担当されたKINUKOヒンダローペンスタジオ主宰の永江絹子先生です。

午前は親子の部、午後は一般の部、合わせて50名の方が参加し、手鏡にチューリップやポピー、モダンポピーの絵を描きました。陰や光をあらわす細かな線には特に集中が必要で、取り組む表情は真剣そのもの。「思わず息をするのを忘れた」という方もいらっしゃいました。

出来上がった作品は同じ図柄ながらとても個性豊かで、皆さん「やっぱり自分で描いたのが一番」とおっしゃっていました。

### 資料館展示品から

坂本龍馬に影響を与えた

## 『新製輿地全図』



『新製輿地全図』のソファアがある常設展示第2室

NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映で、今年は何年以上に坂本龍馬の人気の高まっています。彼に影響を与えた世界地図があります。それは、蘭学者・箕作省吾（箕作阮甫の養子）が出版した『新製輿地全図』です。この地図は、1844（天保15）年に出版されました。龍馬が数えて10歳の年です。少年時代の龍馬は、たびたび通っていた縁戚の川島家で、この地図を見たそうです。この彼が見たという『新製輿地全図』が川島家に今も残り、龍馬に関する書籍やテレビ番組で

も紹介され、この地図を少年時代に見ていたことが、のちの大活躍につながったともいわれます。また、その幕末の志士にも人気の高い地図だったそうですが、この地図がどのように好評を得たのはなぜでしょうか？それは、当時最新の地理知識と世界情勢を知ることができたからです。大陸や島の形もおおよそ正確なうえ、記号付きで植民地の場所を示してあります。例えば、①：イギリス、②：オランダ（＝オランダ）、③：エグレス（＝イギリス）、④：イスパニア（＝スペイン）

というように。当時はちょうどアヘン戦争の直後で「うかうかしていると日本も西洋列強の植民地になってしまうかもしれない」という危機感を、日本の知識人たちに広める役割を果たしたのでした。当館の常設展示第2室には、この地図のソファアがあります。このソファアに腰かけて、じっくりと地図を目をこらせば、若き日の龍馬の心境を想像できるかもしれません。

文：学芸員 小島徹

## 新収蔵資料紹介

購入



■『蘭学事始』

明治2年刊上下2冊  
明治23年刊1冊

杉田玄白が晩年に『解体新書』翻訳時の苦勞など、蘭学草創期の思い出を綴った書。写本で伝わったものを幕末に至って神田孝平が発見し、明治2年に福沢諭吉らが刊行しました。明治23年の再版本には福沢諭吉が序文を寄せ、『蘭学事始』を発見し、読んだ際の感動を記しています。

■岸田吟香書簡 1通  
年末詳8月10日

岸田吟香はアメリカの宣教師で眼科医でもあったヘボンの辞書編纂を手伝い、目薬の製法を伝授されます。この目薬「精錡水」は大変な評判となり、明治9年、銀座に薬舗を開きました。この引札（ちらし）は薬善堂で扱っていた精錡水のほか補養丸、鉄飴煎などの薬を紹介しています。

書簡は御殿場の薬舗・石井周太郎に宛てた礼状です。「お陰で至極適宜な寓処を求めることができた」とあり、吟香が仮の住まいを探すのに、便宜を計っていたと考えられます。



## 宇田川玄随さんも微笑んだ

南小学校の六年生たちが洋学資料館を見学しに来てくれました。そして、前庭の銅像の前で記念写真を撮りました。突然、ある男の子が校章の入った帽子をつるつる頭の玄随さんにかぶせました。最初、「これはけしからん」と思いましたが、その時私の目にはなぜか、玄随さんが照れくさそうにしかも嬉しそうに微笑んでいるように見えたのです。このスナップ写真は子どもたちの思い出とともに長く記憶に残ることでしょう。「銅像が生活の中に生きていて感じた瞬間でした」と感じました。



NEWS FILE

津山洋学 ― さらに教育の場へ

夏休みに入ってから、校長会や教頭会、小学校や中学校の社会科部会をはじめ、林田小学校、弥生小学校など、先生方の資料館での研修が相次いでいます。

7月30日に開催された津山市学校教育研修会では「今子どもたちに伝えたい津山の洋学」と題して館長が講演を行い、参加された先生からは「授業の中でもぜひ話したい」と感想が寄せられました。

今年から、津山市では「ふるさと津山に誇りをもち、たくましく、

心豊かなつやまっ子」を育てるために、GENPOプロジェクトを始めました。その一環として市内の小学校6年生は全員資料館を見学することになりました。すでに見学を終えた数校の子供たちは「津山からすごい人が出たことを知って驚いた」と話してくれました。

教育現場と資料館がさらに連携することで、子どもたちに津山の洋学を知ってもらい、郷土の歴史への関心を育むことができるのではないのでしょうか。



国際ソロプチミスト津山より寄付

国際ソロプチミスト津山より資料館に「ちらしスタンド」と「傘立て」が寄贈されました。これは創立25周年記念事業として開催した、チャリティーゴルフの収益で贈ってくださったものです。6月4日には贈呈式が行われ、近藤淑子会長が「お役立てください」と挨拶されました。館長から「開館したばかりでまだ備品も不十分なのでとてもありがたいです。」とお礼を述べ、感謝状を手渡しました。



青空知事室新館で!!

9月2日、資料館の図書室で青空知事室が開かれました。

青空知事室は、開かれた県政のため、知事と県民が直接対話するもので、これまで県内の各地で開催されてきました。今回は「みんなで盛り上げよう あつ晴れ!おやかやま国文祭」のテーマで、美作地域の国文祭各イベントの中心メンバー11名と石井知事が意見交換を行いました。

意見交換に先立ち、展示の見学も実施され、参加した皆さんは洋学者の偉業に感心したように館長の説明に聞き入っていました。



友の会 研修バス旅行 京都・宇治を訪ねて



京大構内を散策して理学部6号館側の久原躬弦像へ

5月30日、第30回を迎える友の会の研修バス旅行が行われました。

晴天に恵まれ、渋滞もなく最初の目的地の京都大学総合博物館に到着。ここで京都大学名誉教授の植村榮先生と合流しました。

今回の旅の一番の目的は、京大構内の久原躬弦胸像を見に行くことです。津山市「階町出身の化学者・久原躬弦は、京都帝国大学の第4代総長を務めており、その業績を称えるため没後胸像が設置されました。ところが、戦時中の金属供出によりブロンズ製からセメント製になり、さらには安保闘争中の事故で眼鏡部分が欠けてしまっていました。

2003年、友の会で胸像を修復、眼鏡を作り直し、全体を樹脂



料亭「ぎんもんど」で京料理に舌鼓



夕景の平等院

で固めて劣化を防止しました。このときお世話になったのが植村先生で、近年胸像が移転したことをご連絡くださっていました。

久原像の前で先生から校舎の耐震化工事で移転になった経緯などを説明いただき、全員で記念撮影をしました。

お昼は南禅寺の料亭で京懐石をいただき、それから京都の台所と言われる錦市場でお買い物。最後に宇治に移動し、夕陽の中の平等院を見学して帰路に着きました。バラエティーに富んだ見学内容で、帰りのバスは充実した雰囲気でした。

最後になりましたが、植村先生はじめ、各見学地でお世話になった皆さんにお礼申し上げます。

# INFORMATION

## 催し物

## 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 11 第 63 回文化講演会「江戸の阿蘭陀趣味」 講師：神戸市立博物館主幹・学芸員 岡 泰正 先生</li> <li>■ 11 友の会総会</li> <li>■ 17 ヒンダローペンイベント</li> </ul> (休館日：5・12・19・26・30日)	工芸に見る江戸の阿蘭陀趣味 ～4/18
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 30 友の会研修バス旅行</li> </ul> (休館日：6・7・10・17・24・31日)	4/25～
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 燻蒸作業にともなう休館 (28～7/2)</li> </ul> (休館日：7・14・21・28～30日)	蘭方を学んだ医師たちのくらし 地域に生きて
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 31 ヒンダローペン絵付け体験講座</li> </ul> (休館日：1・2・5・12・20・21・26日)	～10/3
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 17 江戸時代の化学書からの再現実験</li> </ul> (休館日：2・9・16・23・30日)	10/9～
9月	(休館日：6・13・21・22・24・27日)	日本が描いた異国
10月	(休館日：4・12・13・18・25日)	～11/14
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 国民文化祭・おかやま 2010 洋学シンポジウム</li> <li>■ 友の会史跡見学会 (日程調整中)</li> </ul> (休館日：1・4・8・15・22・24・29日)	仁木永祐生誕一八〇年記念 美作の板垣退助と呼ばれた医師 ～3/21
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 11・12 洋学史学会 津山大会</li> </ul> (休館日：6・13・20・24・27～31日)	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 30 第 64 回文化講演会 講師 獨協大学教授 加藤 僖重 先生</li> </ul> (休館日：1～4・11・12・17・24・31日)	
2月	(休館日：7・12・14・21・28日)	
3月	(休館日：7・14・22・23・28日)	

■ 催し物 ■ 講演会 ■ 友の会

## 第 25 回 国民文化祭・おかやま 2010 あっ晴れ!おかやま国文祭

洋学シンポジウム

### 江戸時代の国際文化交流

～洋学・異国人・異国船～

11月6日(土) 13:00～16:00  
津山鶴山ホテル 鶴の間

◆コーディネーター

**竹内 誠** 先生 (江戸東京博物館長)

「江戸の海外情報と出版」  
- 長崎屋と須原屋 -

◆パネリスト

**山本 博文** 先生 (東京大学大学院教授)

「外国人の見た日本人」

**大石 学** 先生 (東京学芸大学教授)

「ペリー・ハリスと時代考証」

**磯田 道史** 先生 (茨城大学准教授)

「津山藩の変貌 - 『先進藩』 への軌跡 -」

**岩下 哲典** 先生 (明海大学教授)

「ロシア船・ロシア人・箕作阮甫」  
- 日露交流史と津山の洋学 -

## 第 64 回 文化講演会

### プラントハンターの活躍

～日本からヨーロッパに運び出された植物～

講師：獨協大学教授 **加藤 僖重** 先生

日時：1月30日(日) 13:30～

会場：洋学資料館 GENPOホール

## ご利用案内

■ 開館時間／9:00～17:00

(入館は16:30まで)

■ 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日・12月28日～1月4日

■ 入館料／

一般	高校生・大学生	小学生・中学生
300円 (240円)	200円 (160円)	100円 (80円)

\* ( ) 内は 30 名以上の団体



**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から市内循環ごんごバス東回りで9分、天神橋下車徒歩3分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分